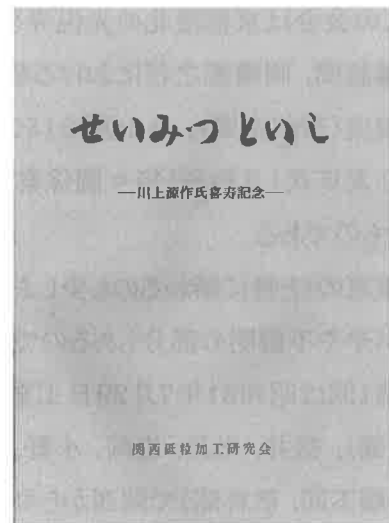


## 砥粒アーカイブス・資料編 ②

## 砥粒加工学会の生い立ち

この記録は、関西砥粒加工研究会初代会長である、故 川上源作氏の喜寿記念講演会および祝賀会の記念小冊子『せいみつといし』（編集：津和秀夫先生、発行所：関西砥粒加工研究会（昭和46年4月発行）、大阪大学工学部精密工学教室内）より、原文のまま関連部所のみ抜粋したものである。右は「せいみつといし」の表紙（実物はオレンジ色）である。



井上 賄 先生 1971(昭和46)年4月記述

## 「砥粒加工研究会」

関西砥粒加工研究会は昭和31年12月8日の第1回研究集会を以て発足した。当日（会場大阪金剛）の参加者は青、田中（義）、古市、徳田、倉田、津和、田中（行）、岡村、井上、松浦（順不同・敬称略）の諸氏で研究会、輪講会、見学会を原則として月1回開催することを申し合せ「東京の砥粒加工研究会とは密接な連けいを保ち相互に資料を交換するが経費については独立採算の立場をとる」ことが決められた。当初は特に役員を設けず津和（阪大）、岡村（京大）両先生と私とが世話人として運営本務を取扱っていたが会の規模が次第に大きくなったので会長、役員制を採用することになり川上先生が満場一致で初代会長に選任されたのである。

関西砥粒加工研究会誕生の直接のキッカケは、東京から故大越先生始め表面工学研究会の大勢の学者、研究者諸公を迎え関西地区の産業代表の有志が開いた懇談会であったように思われる。（写真参照、大越先生撮影）



この会合は京都洛北の光悦寺を会場とし、大越先生の新構想の発表はじめ修学院離宮の見学や関係工場訪問、岡崎都之荘における懇親会等2日間に亘る盛大なものであった。吉岡清太郎(大阪金剛)、友野義夫(東邦窯業)、森山國松(ミヅホ砥石)、三浦自勝(日本研磨)等の諸氏(いずれも故人となられた)や堀江友広氏(日特研)等々関係業界代表者の方々の物心両面の特別の援助があつて和気藹々裡に散会したものである。

東京の(と特に断わるのも少しおかしいが)砥粒加工研究会は当関西砥研のいわば兄貴分にあたる。記憶がやや不鮮明の部分もあるので特に小林昭会長の当時の記録を見せて頂いた。

第1回は昭和31年7月29日工業技術院第1回会議室となっている。出席者19名、大越、竹中、松永、佐藤(健)、松井、米津、塩崎、小野、高沢、横山、西田、小原、井田、塩見、波田野、小林、今中、塚田の諸氏(順不同、敬称略)で関西から私も参加した。

そもそもこのような会合については私が関西に来る前から佐藤(健)、竹中、小林(昭)氏等の間で砥粒加工の専門分野の研究者の勉強会のようなものを作りたいという考えがあり、之れが次第に熟して東京が先ず発足となったものと承知している。

どこかで見聞する“党内不一致”による分派行動の結果、東と西に分裂したものでないことは以上の経緯から明らかであろう。

田中 義信 先生 1971(昭和46)年4月記述

### 「川上源作氏の喜寿を祝う」

関西砥粒加工研究会は、昭和31年末に設立された。当時は経済成長の始動時であつて、社会、工業界、学会ともに、現在と比べて隔世の感がある。研削の分野でも、レジノイド砥石の生産が除々に盛んになるろうとする時代であつて、一般の砥石の生産は戦後の混乱期の低迷時代とくらべて、それほどにも違わないという状況下にあつた。

しかし、研削と研削砥石が今後の工業生産にとって重要な役割を果たすであろうということ、また果たさなくてはならないということは、一部工業界や学会で認識され、これに対処する動きが活発であつた。研削砥石に関係する産学の代表者が京都に会合したのもこの頃であり、研削についての研究が盛んになり始めてはじめてのもこの時代であつた。

こうして、東京に砥粒加工研究会設立の機運が熟して、その発会業務が開始された。関西地区にも、その支部を設置することが誘められたが、関西の特殊性と、関西地区は日本における研削砥石発祥の地であるなどの理由から、別個に関西砥粒加工研究会を設立することになった。

このとき初代会長として、学会および業界に人望の厚い川上源作氏の出馬をお願いしたわけである。こうして東には熊谷直次郎氏を会長とする砥粒加工研究会が同時に発足し、わが国における斯界の権威と精鋭を集めて研究態勢が整つたのである。

## 砥粒アーカイブス・資料編 ③

## 第1回砥粒加工研究会議事録

1、日時 昭和31年7月29日 14:00~17:00

2、場所 工業技術院 第1会議室

3、出席者（敬称略、順不同）19名

東京大学	大越 諄	電気通信研究所	井田一郎
東大生産技研	竹中規雄、松永正久	大阪金剛製砥	井上 賄
東北大学	佐藤健児、松井正己	日本光学	塩見桂三
慶応大学	米津 栄	東洋研磨材	波田野 栄十
東京都立大学	塩崎 進	電気試験所	小林 昭、今中 治、塚田為康
新潟大学	小野浩二	会の趣旨に賛成されながら御都合で欠席された方々	
金沢大学	高沢孝哉、横山恭男	東京工業大学	浅枝敏夫
機械試験所	西田修三	山梨大学	谷口紀男、織岡貞次郎
神奈川県工業試験場	小原 正	大阪金剛製砥	渡辺半十

4、議事 砥粒加工研究会の運営方針に対する討議

4、1 佐藤先生から砥粒加工研究会発足までの経過と、会の目的および取扱う研究対象の範囲について説明があった。(資料1参照)

4、2 主に次の項目について検討し、およそ次のような結論に到達した。

(A) 輪講会 在京会員が中心となって毎月1回行う。定例的に毎月最終木曜日14:00より予め内容を会員に通知する。文献紹介を主とし、その他自己の行っている研究上の問題点を発表して討論する。なお文献の全訳ならびに抄訳をプリントして会員に配布する。

(B) 文献目次の作製、項目別の文献調査

佐藤、竹中、小林が中心となって会員に割り当てて行う。先ず1956年前半の分をまとめ、次第に過去にさかのぼる。各自に関係の深い項目別に割当てる。(別紙1)

(C) 総会 年2回、学会の後で学会では十分討論できないような詳細について、会員相互で十分討議する。研究発表および総会調査報告の発表など。

(D) 会費 手弁当で勉強する会と言う建前でプリント代、通信費などの最小限費用を各自負担する。

(E) その他 1、種々意見の開陳があつたが段々と幹事側ではつきりとした形にまとめ上げてゆく。

2、在京者メンバーの中心は竹中とする。

3、希望する文献の複写は電気試験所で担当する。

実費1頁当り20円(八ツ仕切上)

4、幹事は地方会員と在京会員との連絡のためになるべく出かけることが望ましい。

5、研究発表

「研削熱と研削温度」 東北大学 佐藤健児

1、砥粒と加工物との接触面の温度

2、研削点温度の理論式について

3、研削表面層の温度分布の測定

4、研削面表層の温度分布の理論

プリントを配布して説明があり、佐藤の理論式によれば実験値とよく合うことが発表された。

(資料1)

1、会の名称 砥粒加工研究会

2、会の目的 砥粒および砥石を扱う研究者が集まって、お互いに文献の輪講研究発表討論などを行い、共同の力で研究の促進を図る。

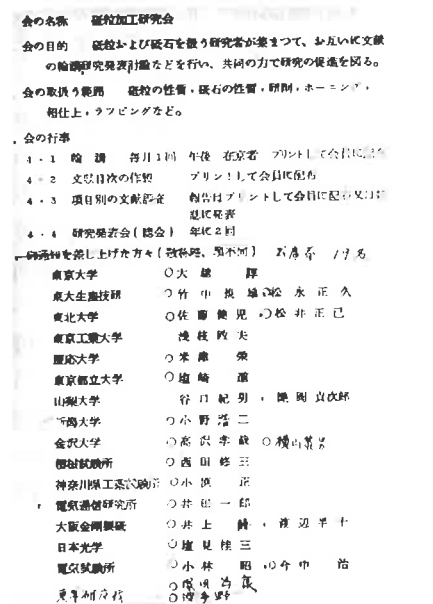
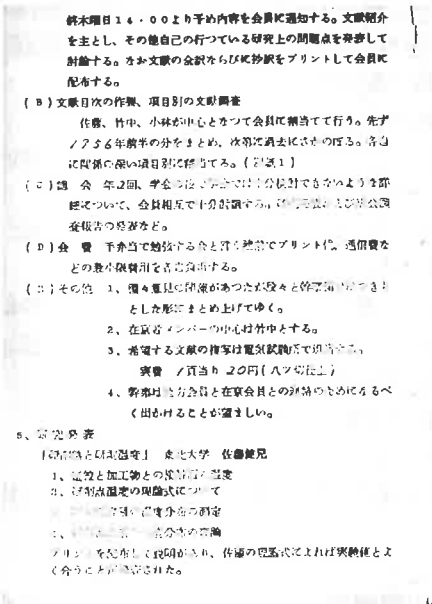
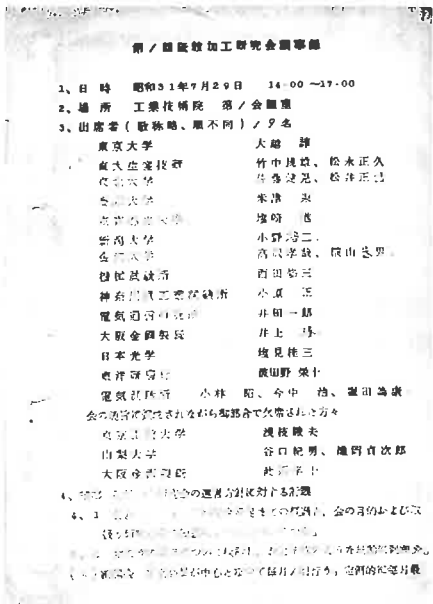
3、会の取扱う範囲 砥粒の性質、砥石の性質、研削、ホーニング、超仕上、ラッピングなど。

4、会の行事

- 4・1 輪講 毎月1回 午後 在京者 プリントして全員に配布
- 4・2 文献目次の作製 プリントして会員に配布
- 4・3 項目別の文献調査 報告はプリントして会員に配布又は雑誌に発表
- 4・4 研究発表会(総会) 年に2回

御通知を差し上げた方々(敬称略、順不同) 出席者 19名

東京大学	○大越 諄	機械試験所	○西田修三
東大生産技研	○竹中規雄、○松永正久	神奈川県工業試験場	○小原 正
東北大学	○佐藤健児、○松井正己	電気通信研究所	○井田一郎
東京工業大学	浅枝敏夫	大阪金剛製砥	○井上 諒、渡辺半十
慶応大学	○米津 栄	日本光学	○塩見桂三
東京都立大学	○塩崎 進	電気試験所	○小林 昭、○今中 治
山梨大学	谷口紀男、織岡貞次郎	東洋研磨材	○塚田為康
新潟大学	○小野浩二		○波田野 栄十
金沢大学	○高沢孝哉、○横山恭男		



「第1回 砥粒加工研究会議事録」の原本 (塚田為康氏よりご提供)